

I 総括的概要

わが国経済は、個人消費に力強さを欠くものの、民間企業の設備投資が底堅く、内需は比較的堅調に推移しました。反面、世界経済の緩やかな減速をうけ、先行きに不透明感が募っています。

平成の30年間は社会経済環境が大きく変化し、グローバル化やIT化が急速に進んだ一方、潜在成長率の低迷や少子高齢化、地方の疲弊などに直面しました。この間に中小企業者数は大幅に減少し、大企業と中小企業の収益力格差は拡大しました。

昨今では、企業規模の大小を問わず、成長の妨げとなる人手不足への対応が急務となっています。これらを解決する手段として、IT等の活用や働き方改革を推し進めた生産性の向上、多様な人材の活用など時代の変化に対応した経営力の強化が最重要課題となっています。

会員事業所を中心に、経営力強化による持続可能な経営基盤づくりを支援する「経営計画策定」を推進し、経営発達支援計画による小規模事業者への伴走型支援を実施しました。地域振興では観光花火大会の復活の声を受け、中心市街地のにぎわいの創出の観点から「宝塚23万人の花火大会～日本一なが～い線香花火（全長55cm、燃焼時間150秒）でギネス世界記録TMに挑戦」という新たなプロジェクトを積極的に支援、結果的に「ギネス記録」更新という成果につながりました。

また、「だいすき宝塚」を推進し「ワンコイン de スタンプラリー2018」を実施、今年度も多くの会員事業所が参加し、新商品展開や販路の拡大により、地域活力を生む原動力として会議所会員が生き生きと躍動する活動ができました。

会員が力を合わせ、時間と労力を出し合った結果が昨年度に引き続き「成果」として実を結んだ一年でした。また、会員数についても増減はありましたが、会勢を堅持することができました。

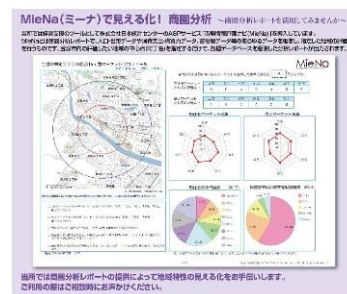
新たな時代に対応する商工会議所とはどのような組織か、また、地域にとって必要な民間経済団体の在り方が改めて問われています。これは商工会議所自身の機能強化にはほかなりません。

個別の事業については、以下のとおり報告いたします。

1. 小規模企業・中小企業等対策

(1) 小規模事業者・中小企業等の経営基盤の確立

当所経営発達支援計画（2017.4～2022.3）において、小規模企業の経営の改善発達を図るため、経営計画策定支援、実行支援を実施している。



(2) 創業・起業支援

平成28年経済センサス活動調査結果において、宝塚市域の事業所数が減少傾向にあることが示された。開業率の向上と開業後の事業継続を支援するため、創業セミナー・ビジネスプランコンテスト等を実施し、フォローアップに努めている。

(3) 相談指導体制の充実

巡回・窓口における経営支援の質的向上を図るとともに、経営支援に携わる職員の資質向上、伴走型支援のより一層の重点化を推進している。

また、高度な支援課題に対しては、外部専門家も積極的に活用している。

2. 地域振興対策

過年度から継続的に新商品開発に取り組んでいる「宝塚 花の里・西谷」ブランド協議会のメンバー企業を中心に、宝塚北サービスエリアでの販売促進支援に努めた。なお、当該サービスエリアの累計利用者数は800万人（2019年5月7日現在）を超え、順調に推移している。

さらに、ジャパン碁コンgres、宝塚市観光キャンペーン、宝塚23万人の線香花火大会への参画を通じて観光振興を図った。

また、ワンコインdeスタンプラリー2018を通じて地域商業振興を、阪神間4商工会議所連携事業等を通じて異業種交流・連携を促進した。



3. 会議所の運営ならびに会議所体制の確立

会員増強、積極的な意見要望活動などの会議所活動を通じて、財政基盤の強化、会議所活動の充実等に努めている。